

認知症でも普通の人

認知症カフェでの取り組み

座間市

有限会社 ふれんどりい

代表取締役 筒井 すみ子

1 はじめに

ふれんどりいは座間市で小規模多機能型居宅介護事業所2か所、地域密着型通所介護事業所3か所を運営している。5つの事業所はそれぞれの特徴を持ち、心身の状況に合わせたケアが提供できる仕組みになっている。そのうちの1か所の小規模多機能型居宅介護事業所に若年性認知症の方や軽度認知症の方が集い、利用者が「働きたい」「人の役に立ちたい」と話していたのを機に活動を『働く』という視線で提供する事にした。ふれんどりいの各事業所では毎日手作りの食事を提供しているので、食事の材料を農協やスーパーに買い出しに行き、それを仕分けして、各事業所に配達に行くといった流れを活動の1つにしてきた。しかし、「買物に行きたくない」「車から降りたくない」「何をやっているか分からない」と徘徊や暴言を繰り返す人がいた為、その活動が『働く』に結びついているのだろうかという疑問にぶつかった。

利用者にとって『働くとは何か』を考えた。

2 事例や取組の紹介

認知症カフェきよさとの取組

目的：①利用者が自ら『働く』と意識し、働けるような環境を実現する

②地域の人に認知症の人を理解できる場所、情報提供のできる場所にする

取組：①活動の見直しをする ⇒ 『働く』を本物にする

利用者との話し合いの場を持ち、何がしたいか聞く

⇒ 「人の役に立ちたい」「自分にはまだやれることがある」「働きたい」

空きスペースにカフェの場所に確保し、本物のカフェにする

⇒ 室内を改装し、保健所に営業許可をもらう。

営業日、時間、メニューの設定をする

⇒ 月～金 11:30～15:30 営業。日替わりランチ 630円 ケーキセット 250円

働く場所として毎日同じことをする ⇒ 働く事を意識づけやすくする

利用者にカフェの仕事の説明をする ⇒ 利用者のできる事を探す

ユニフォームを用意し、着用する ⇒ カフェの仕事への意識をする

オープン前に練習(1ヶ月)

⇒ ホール班：掃除・洗濯物たたみ、干し・コーヒー豆ひき・お盆拭き・配膳・接客
キッチン班：調理補助・盛り付け

- オープン ⇒ 練習の成果が出る。オープンを喜ぶことができた
- オープンから1ヶ月後 ⇒ 仲間が増える。仕事がスムーズにできるようになる
- ②地域の人達に宣伝をする ⇒ タウン誌に載せてもらう。グループホームに営業に行く
コーヒー豆を地域のコーヒー店に頼む。看板を出す
介護関係者に宣伝する。
地域の人向けに認知症講座を開催する

3 考察

活動として買物や配達をしている時より、カフェの目的や役割は利用者には分かりやすく働いているという意識に結び付けることができる。本物のカフェを作った事により緊張感や達成感が生まれた。スタッフと一緒に毎日同じことをする事によって、自分の仕事への理解ができるようになる。同じユニフォームを着用することで仲間意識も生まれてくる。5つの事業者の人達がカフェに食べに来る事によってお客さんの確保ができ、常に働くという環境を作ることができた。

「生きがいを持った」と語る90歳女性はスタッフより包丁さばきが凄いい。「この年で社員にしてもらえて嬉しい」と語る徘徊をしていた男性は掃除を丁寧にこなす。コーヒー豆ひきが自慢である。徘徊も失禁もなくなった。また、交番に「歌を歌うのが嫌だ」と訴えに行った男性はお皿洗いが丁寧。若年性認知症で分からない事が多くなってきているが、笑顔が素敵な女性。周りの人たちが環境を整えて一緒に行なうことで介護度がついても認知症になっても普通の人として生きることができる。そして、その時の利用者の笑顔は素晴らしい。

市内のグループホームの人達がランチやお茶に来てくれ「普段、外食するのに気を使うが気楽に来ることができて嬉しい」という。近所の人が看板を見て来てくれ「認知症の人でも働けることが分かった」と働く人に感動したという。また、デイサービスや小規模多機能を利用開始にあたり最初の入り口としてカフェを利用することもある。ボランティアをしたいとカフェに来る人もいる。

4 おわりに

一人一人何ができるのか、何をしたいのか、見極めることは難しい。できる事を力にしていくこと、そして『自分からやりたい力』に変えていくことは『生きる力』になっていく。スタッフと利用者が仲間になって一緒に取り組んでいくことが大切だと思う。認知症の人たちは自分で環境を作りにくいので、周りの人達たちが認知症のその人を理解し過ごし易い環境を作ることにより、認知症になっても『普通の人』として暮らせる地域にしていけると思う。

地域の人達を巻き込むのは難しく、常に情報を発信していないと、足が遠のいてしまうのも現状である。実際、今年のオープン時は宣伝をしていたので一般のお客さんはいたが、今は宣伝もしていないので知り合いが来る程度になっている。また、カフェの目的を達成していくには、認知症の進行により仕事意識が持てなくなることもあり、利用者の力を引き出す為にスタッフの質も必要になるし、お客さんの確保をどうしていくかなど今後の課題は多いように思う。

*オープン前からオープン1ヶ月までの記録をDVDにまとめてある